

表2.1999年度百日咳患者調査、ワクチン歴あり

症例	県	性別	年齢 年	年齢 月	受診医療機関	発病年月 日	接種歴	有症 日	入院 日数	東浜 急性 期	山口 急性 期	急性 期病 日
35	福岡市	男	0	10	国療南福岡病院	平11.06.15	I-1	70	8			
42	熊本市	女	0	11	市立熊本市民病院	平11.10.10	I-1(平11.10.07化血研07C)	40	0	10未満	40	27
46	佐賀市	女	1	0	広瀬小児科医院	平11.10.05	I-1(平11.08.17化血研107B),I-2(平11.09.07化血研107B)	25	0	10未満	20	14
31	福岡県	女	1	0	三田医院	平11.04.15	I-1(平10.12.18化血研05A),I-2(平11.03.11化血研06A)	30	0	10未満	10	16
28	福岡県	女	1	1	松本小児科	平11.06.20	I-1(平10.11.25),I-2(平10.12.25),I-3(平11.01.29)	15	0			
13	東京都	女	1	11	都立駒込病院	平11.7.24	I-1(平10.3.10)不明	10	0	10未満	10未満	3
74	長崎県	女	2	5	出口小児科医院	平11.10.30	I-1(平9.08.26)武田HJ080A,I-2(平9.9.17)武田HJ080B,I-3(平9.10.18)武田HJ080B,II(平10.11.25)化血研03A	30	0	10未満	20	17
53	大村市	男	3	2	大村市立病院	平10.3.22	I-1(平7.4.18)武田HJ064A,I-2(平7.5.23)武田HJ064A,I-3(平7.8.29)武田HJ066A,II(平8.9.7)武田HJ072A	70	0	80	80	32
20	福岡県	男	3	10	井上小児科医院	平11.05.15	I-1(平8.2.13千葉県37-1),I-2(平8.5.21),I-3(平8.6.21),II(平9.9.26千葉県42)	30	0	10	20	47
29	福岡県	男	4	4	松本小児科	平11.11.10	I-1(平8.1.22),I-2(平8.2.23),I-3(平8.6.21),II(平9.6.23)	20	0	80	40	15
54	長崎県	女	4	7	大村市立病院	平11.05.30	I-1(平7.12.5)武田HJ067C,I-2(平8.1.24)武田HJ067C,I-3(平8.2.28)武田HJ069C,II(平9.3.1)武田HJ076A	30	0	160	40	23
56	長崎県	女	5	5	大村市立病院	平11.10.06	I-1(平7.2.24)武田HJ061A,I-2(平7.3.24)武田HJ062D,I-3(平7.5.8)武田HJ064A,II(平8.5.27)武田HJ070C	50	0	80	20	38
57	大村市	男	6	3	大村市立病院	平10.5.25	I-1(平4.9.1)武田HJ049B,I-2(平4.9.29)武田HJ049B,I-3(平4.10.28)武田HJ049B,II(平6.1.17)武田HJ053B	60	0	320	160	17
37	福岡市	女	7	2	国療南福岡病院	平11.09.05	I-1(平5.6.17),I-2(平5.7.12),I-3(平5.8.20),II(平6.8.26)近医小児科	30	37			
58	大村市	女	7	4	大村市立病院	平10.3.11	I-1(平6.6.1)不明,I-2(平6.7.1)不明,I-3(平6.8.2)38-B,II(平7.8.8)武田HJ064A	30	7	160	40	24
64	大村市	女	10	3	大村市立病院	平10.3.15	I-1(平2.1.19),I-2(平2.2.15),I-3(平2.3.14)	90	0	640	320	65
39	福岡市	男	11		国療南福岡病院	平11.07.	詳細不明	30	0			
65	大村市	女	14	1	大村市立病院	平10.4.9	I-1(昭61.7.22),I-2(昭61.8.26),I-3(昭61.9.18),II(昭62.9.23)	150	0	80	80	126

末梢血白血球数は 25 例で検査してあった。(表 4)

表 4. 末梢血白血球数

末梢血白血球数	例数
50,000/ μ l 以上	0
40,000/ μ l -50,000/ μ l	1
30,000/ μ l -40,000/ μ l	1
20,000/ μ l -30,000/ μ l	6
10,000/ μ l -20,000/ μ l	9
10,000/ μ l 未満	8
合計	25

本年度の百日咳罹患調査をまとめると(1)報告症例数が減少した。報告はすべて九州からである。(2)DPT ワクチン歴ありが 26 例中 5 例あった。そのうちの 4 例はDPT 3 回接種あるいは 4 回接種後 4 年以上経過した例であった。

症例	白血球数	リンパ球%	咳持続	夜間レゼ	スタ	嘔吐	その他	同胞	抗生物質投与	保育園	近所の流行
1	9300	5	39	14	7	なし		あり	あり、クラリスシット 400mg/日 15日間		
2	12800	25	40	30	14	なし		あり	あり、バナンDS2.5g/日 3日	なし	なし
3	28900	17	73	30	14	なし		あり	あり、クラリスロマイシン 0.6g /日 20日間	なし	なし
4	9700	10	45	20	6	あり		あり	あり	あり	なし
5	17100	32		71	25	あり		あり	あり	なし	なし
6	10900	24		61	7	なし		あり	あり	なし	なし
7	23100	13		31	7	あり		なし	あり	なし	なし
8	22500	26		39	11	あり		なし	あり	なし	なし
9	10000	4		59	7	あり		あり	あり	あり	あり
10	20700	24		36	22	あり		なし	あり	なし	あり
11	36100	15	83	42	21	あり		あり	あり、リカマイシンDS 7日間	なし	なし
12	21700	19	63	53	14	あり		あり	あり、リカマイシンDS 14日間	なし	なし
13	15500	54	70	64	9	あり	喘鳴、眼瞼浮腫、チアノーゼ	あり	あり、エリスロシン DS 7日間	あり	なし
14	26300	15	87	44	10	なし	無呼吸	あり	あり、リカマイシンDS 14日間	なし	なし
15	49700	28	81	14	10	なし		なし			
16				20	12	あり		なし			
17	16300	16	65	26	10	なし		なし			なし
18	9100	9	81	14	5	なし		なし			
19	9800	9	90	14	5	なし	顔面紅潮	あり			なし
20	8910	13	70	30	20	あり	顔面紅潮	あり	あり、クラリス180mg 19日間	なし	なし
21	5690	25	47	40	30	なし		あり	あり、FMOX DIV 8日間	あり	なし
22	11210	28	21	40				あり	あり、FMOX → PIPC DIV	あり	なし
23	10360	14	61	90	30	あり		あり	あり、クラリスDS 29日間	あり	なし
24	6830	62	39	80	60	なし		あり	あり、FMOX 4日間 → PIPC 10日間 + CAM	なし	なし
25	13380	6	59	60	40	なし		あり	あり、クラリス 400 mg 15日間	あり	なし
26	7800	7	20	14	7	なし		あり			なし

麻疹における病原体の変異と予防接種による獲得抗体の相関に関する研究

—— 分離年代の異なる麻疹ウイルス株による中和抗体価の差異について（第4報） ——

—— 自然麻疹歴あるいは麻疹ワクチン接種歴のある血清についての検討 ——

塚 春美、木村三生夫（東海大学）

小船富美夫、井上 栄（国立感染症研究所）

野田 雅博（広島県保健環境センター）

【目的】

1950年代と1980年代以降に分離された野外麻疹ウイルスは、性状にいくつかの違いが認められている。大きな変化は（1）1980年代以降の野外麻疹ウイルスはHA活性を欠く、（2）最近の野外麻疹ウイルスには少なくとも2ヶ所の抗原決定基に変異がある、（3）1980年代以降の野外麻疹ウイルスはH、M蛋白の電気易動度に遅れがあり、これはH蛋白への新たな糖鎖結合によると推定される、の3つである。（小船富美夫、臨床とウイルス 22（4）：233-245、1994）

現行のわが国の麻疹ワクチンはAIK-C株、CAM株、Schwarz FF8株、TD97株の4種類であるが、すべて1954年に分離されたEdmonston-Enders由来であり（J Infect Dis 170 Suppl 1, 1994）、変異が蓄積されてきている現代の野外麻疹ウイルスとは遺伝子レベルでの乖離が出てきている。

本研究は平成9年度—11年度に引き続き麻疹ウイルスの遺伝子レベルの変化が血清中和抗体価に影響を与えているかどうかを検討することにある。

平成10年度及び11年度は過去に自然麻疹歴のある症例、過去に麻疹単味ワクチンあるいはMMRワクチン歴のある症例のパネル血清について、豊島株（実験室継代株、Edmonstonに酷似）（平成9年度、10年度）、1984年の新鮮分離株であるノ瀬株（D3グループに属する）（国立感染症研究所にて分離）（平成10年度）、HA欠損株の代表として1993年の新鮮分離株であり全塩基配列が解析されている9301株（国立感染症研究所にて分離）（平成10年度）及び9304株（平成9年度）、1996年の新鮮分離株である9631-01株（平成9年度）、9808株（1998年新鮮分離株、広島県保健環境センターにて分離・同定、塩基配列は未解析）を用いた中和抗体価を比較検討した。

本年度も麻疹単味ワクチン接種歴のある血清および自然麻疹歴のある血清について豊島株、9301株、9808株、および2011株（2000年新鮮分離株）を用いて中和抗体価を測定し、比較検討したので報告する。

【材料及方法】

麻疹中和抗体測定には、豊島株、1993年新鮮分離株 9301 株、1998年新鮮分離株 9808 株、2000年新鮮分離株 2011 株を用いた。中和抗体の測定は国立感染症研究所の標準法によった。

【結果】

図A1に自然麻疹罹患後血清、図A2に北里麻疹ワクチン(AIK-C)接種後の血清の中和抗体価の相関を示す。

自然麻疹罹患後の血清および北里麻疹ワクチン(AIK-C)接種後血清において、豊島株中和と9301株中和、9808株中和、2011株中和は極めて高い相関を示した。

【考察】

過去3年間の研究結果は、現行の麻疹ワクチンの接種を受けた者の血清は1984年以降にわが国で分離された野外麻疹ウイルスに対して豊島株に対するのと遜色ない中和活性を示すことを明らかとした。今年度新たに2000年度新鮮分離株(2011株)を用いた中和を加えたが、今年度の結果もまた過去3年間の結論を支持するものである。

本研究結果からは、1980年代に起こった野外株麻疹ウイルスの変異が現行の麻疹ワクチンの有効性に影響を及ぼしているという積極的な証拠は認められなかった。

図 A1 自然麻疹後の血清中和抗体価の相関

中和抗体価(豊島株)と中和抗体価(9301株) 49症例

麻 疹 中 和 抗 体 価	4094													
	2048													1
	1024											1		
	512													
	256									4	1			
	128								5	5				
	64						1	6	5	2				
	32					2	3	1	1					
	16					2	3							
	9			1			1							
	3				1									
	0													
	1	<2	3											
	株	<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	2048	
麻疹中和抗体価 豊島株														

中和抗体価(豊島株)と中和抗体価(9808株) 25症例

麻 疹 中 和 抗 体 価	4094													
	2048													
	1024													
	512													
	256									1				
	128								2	5				
	64							1	4					
	32					2	2	2						
	16					2	2							
	9			1										
	8				1									
	0													
	8	<2												
	株	<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	2048	
麻疹中和抗体価 豊島株														

中和抗体価(豊島株)と中和抗体価(2011株) 24症例

麻 疹 中 和 抗 体 価	4094													
	2048													1
	1024													
	512											1		
	256										1			
	128									5				
	64							1	2					
	32							2	3					
	16						4	1						
	2													
	0													
	1													
	1	<2	3											
	株	<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	2048	
麻疹中和抗体価 豊島株														

図 A2 北里麻疹ワクチン(AIK-C)接種後の血清中和抗体価の相関

中和抗体価(豊島株)と中和抗体価(9301株) 212症例

麻 疹 中 和 抗 体 価	4094													
	2048													
	1024													
	512													
	256								1	2				
	128							1	3	2	1			
	64						4	13	20	2				
	32					2	24	33	6					
	16				1	14	28	6						
	9				6	22	11							
	3				5	3								
	0													
	1	<2	2											
株		<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	2048	
		麻疹中和抗体価 豊島株												

中和抗体価(豊島株)と中和抗体価(9808株) 58症例

麻 疹 中 和 抗 体 価	4094													
	2048													
	1024													
	512													
	256										1			
	128									1	1			
	64								3	6				
	32							10	15					
	16					2	9							
	9				2	8								
	8													
	0													
	8													
株		<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	2048	
		麻疹中和抗体価 豊島株												

中和抗体価(豊島株)と中和抗体価(2011株) 147症例

麻 疹 中 和 抗 体 価	4094													
	2048													
	1024													
	512													
	256													
	128									1	3			
	64								3	9	2			
	32							1	21	13				
	16					11	26	11						
	8				5	18	14							
	0				5	2								
	1													
	1													
株		<2	2											
		<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	2048	
		麻疹中和抗体価 豊島株												

麻疹ワクチン接種後の抗体持続に関する長期観察

— 平成12年次中間報告 —

集計解析担当

堺 春美、木村三生夫（東海大学）

小船富美夫、井上 栄（国立感染症研究所）

測定担当

野田 雅博（広島県保健環境センター）

調査研究協力者

岡藤 輝夫（岡藤小児科医院）

布上 董（中村学園大学）

【目的】

平成6年度より麻疹ワクチン研究会として麻疹ワクチン接種後の抗体の長期持続について検討を行っている。わが国の麻疹ワクチンは4製造所が製造している。北里研究所の麻疹ワクチンはゼラチンのみを含むワクチンであるが、1998年7月に市場に出た lot M19-1 から低アレルギー性ゼラチンであるプリオネクス[®]に変更している。武田薬品と阪大微研は現在人血清アルブミンのみを含む麻疹ワクチンを販売している。千葉血清の麻疹ワクチンについては、1997年6月にはゼラチンも人血清アルブミンも含まないと記載（予防接種の手びき 第7版第3刷）されている。しかし、同第8版出版に当たって問い合わせたところ、1998年6月 lot C4-1 よりゼラチンも人血清アルブミンも含まない麻疹ワクチンとなったという回答を得た。

自然麻疹歴のある者、麻疹ワクチン歴あるいはMMRワクチン接種歴のある者から得た血清の麻疹抗体の持続について報告とする。

【方法】

平成12年春に本研究会の継続につき、各研究協力者に連絡した。

送付されてきた血清につき、中和抗体価（豊島株使用）を広島県保健環境センターで測定した。

【結果】

表 B1 に 2000 年度に測定したワクチン接種歴別の血清検体数を示す。測定検体は 224 検体であったが、解析できる検体数があったのは、ワクチン歴なしの罹患例 19 検体、A I K・C 単味接種例 155 検体、A I K・C を含む MMR ワクチン接種例 40 検体であった。

表 B1. ワクチン接種歴別血清検体 (2000)

担当医	ワクチン歴なし 罹患	ワクチン歴あり						ワクチン歴・罹患など 詳細不明	合計
		北里 A I K・C 単味	A I K・C を含む MMR	武 田 Schwarz FF8 単味	微研 CAM	千葉 TD97	Lot 不明		
岡藤	14	207	30	45	6	13	2	0	317
布上*	36	6	0	5	2	0	74	33	156
合計	50	213	30	50	8	13	76	33	473

表 B2 に自然麻疹および麻疹単味ワクチン、MMR ワクチン接種後の中和抗体価の長期観察結果を示す。1999 年度採血分 (昨年度報告) と 2000 年度採血分 (本年度) の結果はほぼ一致している。

図 B1-図 B6 に自然麻疹罹患後、北里 A I K・C ワクチン接種後、および A I K・C を含む MMR ワクチン接種後の中和抗体価を接種後年数別に示す。中和抗体価はワクチン接種後長期に維持されていることが示された。

【結語】

昨年度までと同じく、本研究会の結果は、麻疹ワクチンならびに MMR ワクチン接種後、抗体価は長期にわたり持続していることを示す。

表B2. 自然麻疹および麻疹単味ワクチン、MMRワクチン接種後の中和抗体価の長期観察

項目	1999年度		2000年度	
	例数	平均抗体価 2^n	例数	平均抗体価 2^n
自然麻疹	19	6.6	45	6.1
単味	北里AIK-C	155	211	5.3
	武田SchwarzFF8		50	5.7
	微研CAM		8	4.5
	千葉TD97		13	4.5
MMR	MMR(AIK-C)	40	30	4.7
	MMR(SchwarzFF8)			
	MMR(CAM)			

注1 中和 <2 は $n=0$ として平均中和抗体価を算定

注2 小数点2桁以下は切り捨て

注3 北里の1例は1か月以内の採血であったので、平均中和抗体価の算定から除外

図B-1 自然麻疹(ワクチン歴なし)罹患後中和抗体価 45症例

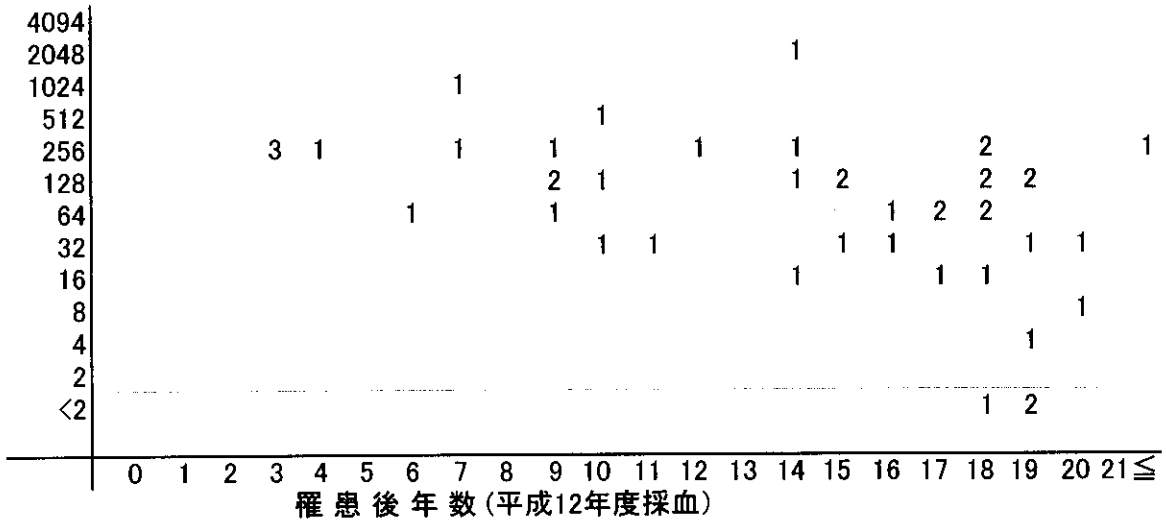
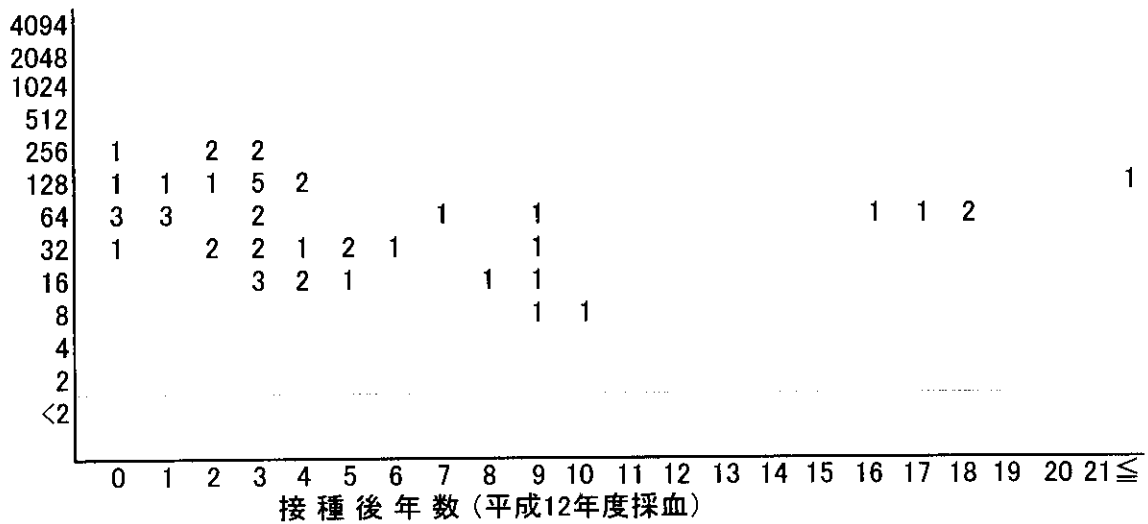
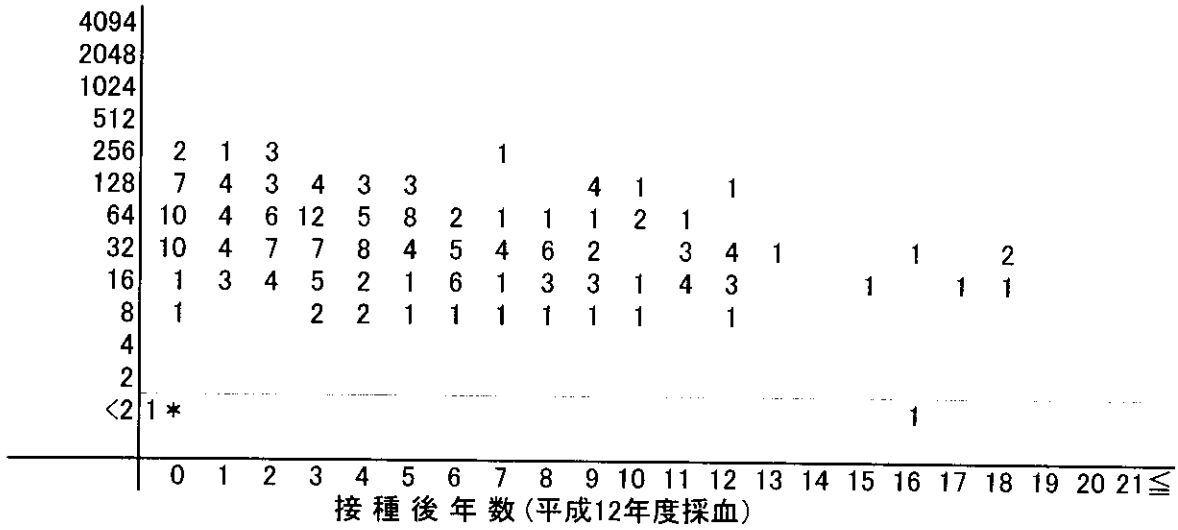


図 B-2 麻疹ワクチン接種後中和抗体価(武田) 50症例



図B-3 麻疹ワクチン接種後中和抗体価(北里) 212症例



注 * 接種後7日目の採血

図 B-4 MMRワクチン(AIK-Cを含む)接種後中和抗体価 30症例

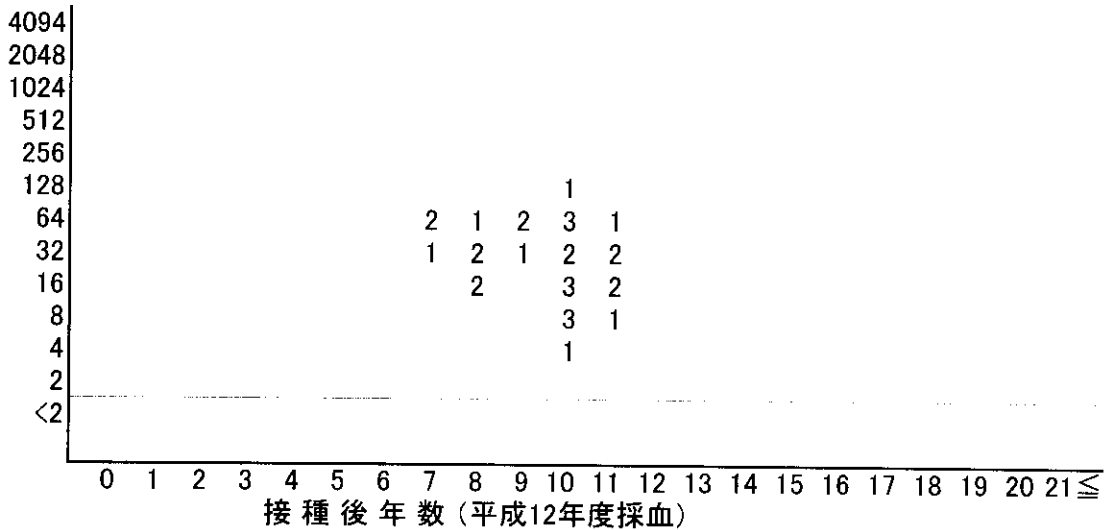


図 B-5 麻疹ワクチン接種後中和抗体価(微研) 8症例

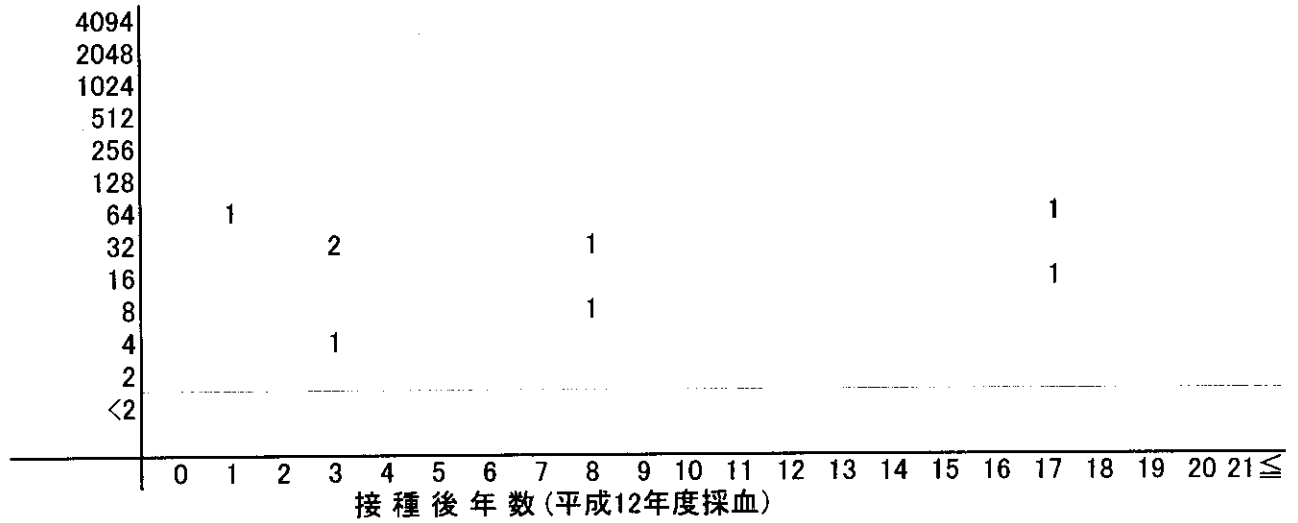
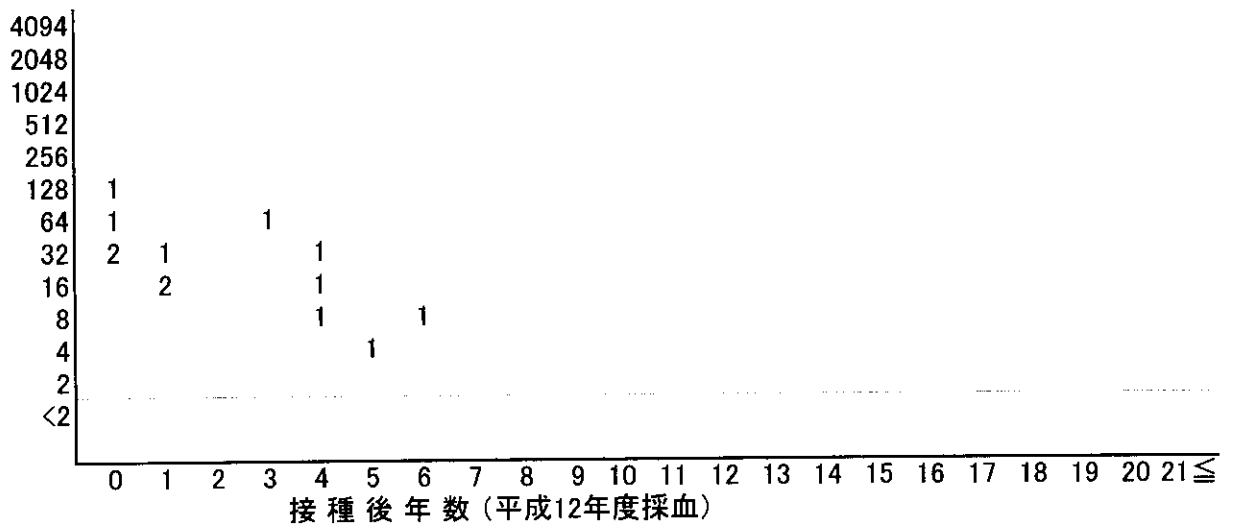


図 B-6 麻疹ワクチン接種後中和抗体価(千葉) 13症例



麻疹患者調査集計報告
——平成12年（2000年）次（4年目）報告——
集計解析担当

堺 春美、木村三生夫（東海大学）
小船富美夫、井上 栄（国立感染症研究所）

麻疹罹患調査協力機関 担当者（順不同）
山本 光興（山本小児科医院、国分寺市医師会）
田中 均、横山 宏（山梨県立中央病院）
岡藤 輝夫（岡藤小児科医院）

【目的】

過去3年間に引き続き、わが国における麻疹患者の実態調査を行なう。

【方法】

あらかじめ研究協力をしていただける先生を広く募り、調査票を配布して、症例報告をいただいた。

【結果】

麻疹患者報告機関数は3機関、報告数は山本小児科医院（他医院を含む）からは追加報告分を含めて47例、山梨県立中央病院4例、岡藤小児科医院1例、合計52例、男26例、女26例と男女同数であった。（別表 平成12年度 麻疹症例及び平成12年度 麻疹症例追加分 参照）

年齢は表1のごとくである。0歳から39歳まで幅広く分布。昨年度は0歳と1歳で全体の47%（14/30）を占めており、15歳以上はわずかに3%（1/30）であったのに比較すると、成人麻疹が全体の40%（21/52）と飛躍的に増加している。

確実なワクチン歴ありはわずかに3例、他に1歳の時にワクチン接種を受けたかもしれない例が1例あった。さらに患者と接触した翌日の接種例が1例あった。

感染源が明らかとされたものは、全部で8例あった。（表2）全体の半分（4/8）は家族から感染している。

【結語】

伝染病予防法の改正により、麻疹は第4類感染症となり、感染症発生動向調査（全国サーベイランス）による定点観測が行なわれるだけとなった。そのため、個々の症例の十分

な情報が得られず、ワクチン歴の有無さえわからない。本研究班では、個々の症例の臨床症状、検査所見などの詳細な内容の検討、感染源調査を行い、わが国の麻疹の実態を調査している。今年度は昨年度に比較して、罹患年齢が成人年齢に極端にシフトしている。

成人麻疹については、向後の調査と有効な対策の検討が必要であろう。

表1. 麻疹患者年齢分布 2000年度

年齢	例数
0-5月	0
6-11月	6
1歳	7
2歳	1
3歳	3
4歳	1
5歳	0
6歳	0
7歳	0
8歳	1
9歳	1
10-14歳	11
15-19歳	5
20-29歳	8
30-39歳	8
40-49歳	0
合計	52

表2. 麻疹感染源 2000年度

感染源	例数	小計
父親	1	4
母親		
兄	1	
姉	1	
弟		
妹	1	1
いとこ		
友達	1	
近隣の流行		2
旅行先		
乳児院	1	1
保育園・保育所	1	
幼稚園		8
乳児健診		
病院外来	1	
病棟		
合計		8

平成12年度 麻疹症例

番号	報告者	性別	歳	発症年月日	ワキ ン歴	入院	有熱 期間 最高 体温 (日)	カ ル 症 状	コ ア リ ッ ク 斑	発 疹	合併症	感染源	備考	病日	ELIS ELISA A IgG IgM
2000-1	岡藤輝夫	男	0	2000.12.8	なし	なし	39.4	6+	+	+		不明	咽頭ぬぐ い液ウイ ルス+		
2000-2	山本光興	男	0	2000.6.20	なし	なし	39.8	8+	+	+	脱水	双生児 の兄	7/9麻疹患者 (兄)と接触、 7/10予防接種、 7/23発熱発疹、 7/24咳、鼻汁、 眼脂		
2000-3	山本光興	女	0	2000.7.23	患者と接触の翌日接種(AIK-C M19-13)			±	±	±					
2000-4	山本光興	男	0	2000.8.8	なし	なし	39.3	7+	+	+					
2000-5	横山宏	女	1	2000.6.10	なし	あり	39.8	4+	-	+	肺炎	父 乳児院			
2000-6	横山宏	女	1	2000.8.31	なし	なし	38.4	4+	+	+					
2000-7	山本光興	女	1	2000.4.26	なし	なし	39	7+	+	+					
2000-8	山本光興	女	1	2000.4.24	なし	なし	40.1	7+	+	+					
2000-9	山本光興	男	1	2000.12.24	なし	なし	40	9+	+	+	肺炎				
2000-10	山本光興	男	2	2000.4.21	なし	なし	39	5+	-	+					
2000-11	山本光興	女	3	2000.7.4	なし	なし	39	7+	+	+		保育園			
2000-12	山本光興	女	4	2000.7.4	なし	なし	39	7+	+	+					
2000-13	山本光興	女	8	2000.3.5	なし	なし	39	8+	+	+					
2000-14	山本光興	男	9	2000.4.8	なし	なし	39	7+	+	+					
2000-15	山本光興	男	10	2000.3.9	なし	なし	39	8+	+	+					
2000-16	山本光興	男	10	2000.4.14	なし	なし	38	8+	+	+					
2000-17	山本光興	男	10	2000.6.23	なし	なし	39	5+	+	+					
2000-18	山本光興	男	10	2000.6.29	なし	なし		8+	+	+					
2000-19	山本光興	男	10	2000.7.18	なし	なし		8+	+	+					
2000-20	山本光興	女	12	2000.7.4	なし	なし	39	≥7	-	+		2週間前姉発症			
2000-21	横山宏	男	14	2000.8.31	なし	あり	40.2	7+	不明	+					
2000-22	山本光興	女	14	2000.1.1	なし	あり	40.1	11+	+	+					
2000-23	山本光興	女	15	2000.6.13	なし	なし	39	9+	+	+					
2000-24	山本光興	男	16	2000.4.19	なし	なし	36.8	1-	-	+					
2000-25	山本光興	女	16	2000.1.11	なし	なし	40	8+	+	+					
2000-26	山本光興	女	18	2000.5.21	なし	あり(昭59)	40.5	7+	+	+					
2000-27	山本光興	女	19	2000.4.17	なし	なし	39	8+	+	+					

検査施行されていない
妹1日前に発症
6
第8病日HI8x
6.5(+)

平成12年度 麻疹症例

番号	報告者	性別	年齢	発症年月日	麻疹歴	入院	最高体温(日)	有熱期間(日)	発疹状況	コプリック斑	発疹	合併症	感染源	備考	発疹時HI16x	病日	ELISA A IgG	ELISA IgM
2000-28	山本光興	女	21	6/2000.5.24	なし		40	10	+	+	+							
2000-29	山本光興	女	21	0/2000.7.22	不明		39.2	5	+	-	+	水様下痢						9.57(+)
2000-30	山本光興	男	22	3/2000.7.24	不明		40	5	+	不明	+	水様下痢						
2000-31	山本光興	男	23	0/2000.7.30	あり(昭54.4.23ロット不明)		39	≥4	+	-	+							
2000-32	山本光興	男	25	1/2000.7.10	なし		39	10	+	+	+							
2000-33	山本光興	女	28	9/2000.6.22	なし		39	6	+	+	+							
2000-34	山本光興	男	29	0/2000.9.30	なし		42	9	+	-	+							
2000-35	山本光興	男	31	1/2000.7.23	なし	あり	40.2	8	+	+	+							
2000-36	山本光興	男	32	3/2000.5.8	なし		39.5	8	+	+	+							
2000-37	山本光興	女	33	4/2000.4.22	なし		39	6	+	+	+	肝障害						
2000-38	横山 宏	男	34	2000.7.15	なし	なし			+	+	+							

平成12年度 麻疹症例(追加分)

番号	報告者	性別	歳	月	発症年月日	ワクチン歴	入院	最高体温	有熱期間(日)	カタル症状	コップ リップ 斑	発疹	合併症	感染源	備考	病日	ELISA IgG	ELISA A IgM	CF
2000-39	山本光興	女	39	0	2000.1.5	あり(詳細不明)		39.6	5	なし	あり	+				6	8.92		16
2000-40	山本光興	男	33	10	2000.12.29			39.0	5	あり	なし	+							
2000-41	山本光興	女	33	2	2001.3.6	不明		38.6	7	あり	なし					5		9.83	
2000-42	山本光興	女	33	1	2000.12.25	あり?		37.8	4	あり	あり	0			児(2000-50) と同時発症				
2000-43	山本光興	女	22	3	2000.1.28	なし		39.3	7	あり	あり	+							
2000-44	山本光興	女	14	9	2001.1.5	なし		39.9	6	なし	なし	+							
2000-45	山本光興	男	14	8	2001.1.7	なし		39.0	5	あり	あり	+							
2000-46	山本光興	男	13	9	2001.1.7	なし		38.8	4	あり	あり	+							
2000-47	山本光興	女	3	5	2001.1.6	なし		40.2	7	あり	あり	+							
2000-48	山本光興	女	3	0	2001.1.5	なし		39.9	6	あり	あり	+							
2000-49	山本光興	女	1	1	2000.8.19	あり(ブラジルにて)		38.8	7	あり	あり	+							
2000-50	山本光興	男	1	0	2000.12.24	なし		39.0	5	あり	あり	+							
2000-51	山本光興	男	0	10	2000.11.28	なし		38.5	7	あり	あり		肺炎						
2000-52	山本光興	男	0	9	2001.1.18	なし		39.5	4	なし	なし	+							

Ⅱ. 予防接種の効果と感染症の 発生状況に関する調査研究